

Next is us

日体魂を受け継ぐ者

2020年に向けて、
日体大から世界のすべての人々へ
スポーツの魅力と平和への願いをつないでいく。

Special Contents

03

日本体育大学が定める3つの方針

ディプロマ・ポリシー／カリキュラム・ポリシー／アドミッション・ポリシー

07

図書館を使いこなそう!

- ・日体大図書館の実はココがすごい!
- ・図書館のお仕事
- ・I Love 図書館

11

教員志望の日体大生を力強くサポート

教職支援センターを知る、活かす、夢に近づく

Report③子どもの成長に寄り添えるのが魅力。
教員は一生をかけるのに値する仕事である。

近藤 智靖 教授

教職支援センター 副センター長

13

Next is us 日体魂の聖火リレー

～日体魂を受け継ぐ者～

第5回 勝負の瞬間は無心に。自分に負けない精神を鍛え上げる。

池 愛里 選手(パラ競泳)

15

学びの深化、広がりを目指す新たなスペシャリスト 平成30年度 新採用教員紹介

19

平昌オリンピック・パラリンピック 結果報告・祝賀会開催される



「知」に親しむ

▷今年度、スポーツマネジメント学部が誕生し、日体大の学びのステージがさらに広がった。スポーツを愛する多様な学生がますます集うことになるだろう。競技は言うまでもなく、教育、文化、国際、マネジメントなど、スポーツを巡る領域は幅広く、奥深い。

▷今号では、日体大の方針(ディプロマ・ポリシー／カリキュラム・ポリシー／アドミッション・ポリシー)を掲げた。諸活動を通しての成長や人との出会いなど、学生に有意義な思い出に残る4年間を過ごしてもらいたいことは言うまでもない。そして、大学生にふさわしい「知」「人間力」を身につけることが必須だ。「学ぶ」ということを真摯にとらえていきたい。

▷そのために、身近な財産である図書館は大いに活用されるべきだろう。「知」を深めることによって、競技力も人間性もさらに磨かれ豊かなものになるはずだ。「知」を友とすると、人は自然と謙虚になる。

学報NITTAIDAI(ニッタイダイ) 53号

発行日●2018年7月20日

発行●日本体育大学広報課

TEL 03-5706-0948

FAX 03-5706-0922

http://www.nittai.ac.jp/

制作協力●(株)図書出版

キャンパス・施設の充実は、教育・研究・クラブ・サークル活動の活性化のために重要な施策である。本学もこのことに注力してきたのは周知の通りだ。

さて、横浜・健志台キャンパスは、昭和43（1968）年に運動施設の建設に着手し、翌年第1期工事が完了した。「陸上競技場」「野球場」「ラグビー場」「サッカー場」「テニスコート」「アーチェリー場」「バレーボールコート」「ハンドボールコート」などが順次建設されていた。その歴史は間もなく半世紀を迎えようとしている。

この大学用地の確保と諸施設の建設は当時の日本体育会の米本卯吉理事長の熱意によるものだった。この地が「健志台」と命名されたのも、米本先生によるものである。「健」は「健康」を意味し、「志」は「志」学および鴨「志」田町にちなみ、「台」は丘陵を指すという。さしずめ「若人がこの丘陵地に集い、学問を志すとともにスポーツに汗して健康を志す」という意味に解釈することができるだろう。

健志台の施設は、もともとは運動施設の建設を中心に計画されたものだった。しかし、この施設を利用する運動部は陸上競技部、野球部、ラグビー部、サッカー部など部員数の多いクラブが中心となっていたこともあり、この地に教室を設けて、学生たちの授業の便を図るようになる。こうして、日本体育会の100周年[平成3（1991）年]の記念事業として諸施設の拡充と整備が行われ、「横浜・健志台キャンパス」の誕生となった。1号館が百年記念館、2号館が米本記念体育館と命名されているのもこれまで述べてきた経緯による。

代表的な施設では、健志台合宿寮は昭和53（1978）年、健志台体育館（現・第一体育館）は昭和54（1979）年の落成である。多くの先輩が汗を流してきた伝統ある施設だ。また、大学としてはトップレベルを誇る体操競技専門の体育館「体操競技館」は平成16（2004）年に落成した。さらに、保健医療学部開設[平成26（2014）年]、スポーツマネジメント学部開設[平成30（2018）年]により新校舎が施工され、今日に至る。



横浜・健志台キャンパス全景（航空）



横浜・健志台キャンパスの半世紀



百年記念館

日本体育大学が定める3つの方針

ディプロマ・ポリシー／カリキュラム・ポリシー／アドミッション・ポリシー

ここに掲げることは「卒業認定・学位授与」「教育課程編成・実施」「入学者受入」の方針を明示したものである。本学は時代の要請に応え、各学部3ポリシーの見直しを行った。教育の質保障を担保するためには、これらの方針に基づき、教育プログラム等を厳格に運用することが求められる。教育・研究・学習において、常に3つのポリシーに照らして、検証・改善に努めることを期待したい。

体育学部

ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

体育学部では、本学の「教育目標」に沿った人材を育成するため、独自の教育プログラムを展開する。この課程における、卒業認定と学位授与【学士(体育学)】の要件は、以下の通りである。

- ① 所定の期間に在学し、本学の社会的使命(ミッション)及び目標(ビジョン)に則って設定された授業科目を履修することにより、所定の単位を修得している。
- ② 体育スポーツ学に関する諸科目の多面的な履修を通じて、広く教養を培うとともに、体育・身体活動・スポーツの実践を通じて、体力の向上、健康の保持増進、心身の調和のとれた発達、競技力向上、国際平和の実現に貢献できる専門的知識と技能とを体得している。
- ③ 体育学部における共通教育及び各学科・学修領域に設定する体系的学修とを通じ、現代社会が抱える体育スポーツ学の諸問題について、課題探求力や問題解決力、さらには、それらを実践現場において有効に還元するためのコミュニケーション力、実践力を備えている。

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

体育学部は、「卒業認定・学位授与の方針」に掲げる知識及び能力を修得させるために、その基礎となる体育学部共通科目及び各学科・学修領域における実践的科目を編成し、講義・演習・実習等を適切に展開する。

[体育学科]

- ① 体育学科では、「スポーツ教育」及び「競技スポーツ」に関する学修領域を設け、当該分野におけるより高度な知識と技術とが体得できるよう、関連科目を配する。
- ② 青少年の健全な心と身体とを育む力やスポーツの競技力向上に資する力を修得すべく、関連の実践的技術・理論科目を配する。
- ③ スポーツ医科学、コンディショニング管理、ス

スポーツ傷害に関する科目についても設けることとし、ひとりひとりの技術・体力レベル等に応じた適切なスポーツ指導が展開できるよう、実践現場での実習等を重視する。

[健康学科]

- ① 健康学科では、「ヘルスプロモーション」及び「ソーシャルサポート」に関する学修領域を設け、当該分野におけるより高度な知

識と技術とが体得できるよう、関連科目を配する。

- ② 心身ともに健やかで豊かな福祉社会の実現に貢献できるよう、健康科学・スポーツ医科学に関する実践的技術・理論科目を配する。
- ③ 身体活動によって生じる外傷・障害の対応、安全の確保に必要な実践的技術を修得できるよう、実践現場での実習等を重視する。

アドミッション・ポリシー(入学者受入の方針)

体育学部は、その「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」に沿って、入学試験を実施する。

[求める人材像]

- ① 国語、英語等で学んだことを基盤とした言語能力及びコミュニケーション能力を有している。
- ② 地理歴史、公民等を通じた地球規模で現代社会を読み解く力を有している。
- ③ 数学、理科等で学んだ思考力に基づき、体育・身体活動・スポーツを客観的に分析する力を有している。

- ④ 保健体育、芸術等で研いだ感性と創造力から、人間の心身の可能性(スポーツ・芸術・文化)について探究する力を有している。
- ⑤ 種々の課外活動を通じて身につけたチームワークや実践力を有している。

[入学者選抜の種類]

入学者選抜にあたっては、上掲の高等学校等において修得すべき、知識・技能、思考力・

判断力・表現力、主体性・多様性・協働性、などを備えているか否かを評価するため、「総合型選抜」(AO入試)、「学校推薦型選抜」(推薦入試)、「一般選抜」(一般入試：含大学入試センター試験)、「特別選抜型」(帰国生・IB資格・英語外部資格・外国人留学生・リカレント・飛び入学入試)、など多様な選抜区分を設ける。

スポーツ文化学部

ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

スポーツ文化学部は、本学の教育理念を根幹とし、「独自の教育・研究プログラムを創造的に展開し、我が国の体育・スポーツ界ならびに来るべき知識基盤社会をリードする大学を目指す。また、同時に心身ともに逞しく、明朗活発で、自らが選択した職種の現場において即戦力として活躍できる人材の育成を図る。」という教育目標を掲げて、それを実現するために教育課程(カリキュラム)を編成・実施している。この課程を終えて、学位が授与されるためには、以下のことが求められる。

- ① 所定の期間に在学し、本学の教育理念・教育目標に沿って設定した授業科目を履修して、卒業要件単位数を修得する。
- ② 体育学(スポーツ科学)及び武道学、伝統芸能の研究を深め、多面的な履修を通じて基礎的な学習能力を養い、日本の「道」の精神に基づく実践的技術を向上させ、国際社会においてスポーツ・体育による貢献のできる専門的な知識を理解するとともに、これらを実践できる力を身につける。
- ③ 学科における専門的学習と学科を横断する学習とを通じて、現代社会において日本の

伝統的な文化に根差した国際貢献の役割を深く理解し、課題探求心、問題解決能力、コミュニケーション能力などの総合能力を身につける。

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

本学は、建学の精神に基づく教育使命を実現すべく、スポーツ文化学部には武道教育学科、スポーツ国際学科を置き、次の方針のもとに教育課程を編成し実施する。

- ①よき市民及び国際人として身につけるべき基本的な素養としての社会人基礎力を形成するため、スポーツ文化学部の学部共通科目では言語コミュニケーションや基礎教養に関わる教養科目と本学独自の総合科目を配し、調和のとれた人間力をたかめる。
- ②武道学、伝統芸能の実践とこれらの文化の領域を包括するスポーツ文化学を専攻する

- 学生として、学部専門科目（理論）と学部専門科目（体育実技）を学修し、スポーツ文化学ならびに武道と伝統芸能の基本的な知識や実践力を修得する。
- ③各学科において、当該専門分野の基幹となる学科基礎科目と学科専門科目を学修するとともに、多様で実践的な科目を通じて、さらに高度な知識や実践力を体得する。

- ④体系的かつ専門的な学修を通じて体得した知識、技術等を総合的に活用し、国内外において武道教育、伝統芸能、体育指導、スポーツ国際交流、スポーツ支援、スポーツ国際開発援助などの領域における今日の課題を実践的に解決する力を獲得する。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

日本体育大学は、『體育富強之基』を建学の精神（教育理念）として、体育及びスポーツを通して全ての人々の願いである「心身の健康」を育むとともに、世界レベルの優秀な競技者・指導者の育成を一貫して追求し続けてきた。本学は、体育・スポーツの科学的研究を基に、競技力の向上や豊かな社会の実現に向け多様な学修（「実践」と「理論」）を展開し、特に身体を動かすことによって、認知された人間の運動感覚（＝身体知）の諸問題について、分析や検討を加え、そこから得られた新たな知見を再びスポーツの現場に活かしていくこととする双方向の試みを積極的に展開して

いる。そこで、スポーツ文化学部では、「一般入試」及び「推薦入試」等の入試を実施し、一定の基礎学力と運動能力を持ち、我が国固有の「道」の精神性を持つ武道とそれを包括する芸道についての正しい理解とその普及、さらにスポーツ分野における人的、物的な国際交流に関する知的好奇心の旺盛な者を幅広く迎え入れることとしている。本学独自の実践と理論との一体的学修の成果を基に、スポーツを通して国際相互理解や国際交流、国際支援、国際貢献が実現できるよう、眼前の課題に対して総合的かつ実践的な解決を真摯に探究できる者の入学を期待するものである。

【入学時までに身に付けてほしい学力・能力】

本学は体育及びスポーツの科学的研究を基に、競技力の向上や健康で豊かな社会の実現に向け多様な学修（「実践」と「理論」）を展開している。そこで入学時までに次のような学力や能力を研いて、これらの学修に臨むことが期待される。国語や英語で学んだことを基盤としたコミュニケーション能力、地理歴史や公民等を通じた地球規模で今日の社会を読み解く力、さらには数学や理科等で学んだ思考力に基づき、スポーツ等を客観的に分析する力等である。

スポーツマネジメント学部

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

スポーツマネジメント学部は本学の教育理念を根幹とし、「独自の教育・研究プログラムを創造的に展開し、我が国の体育・スポーツ界ならびに来るべき知識基盤社会をリードする大学を目指す。また、同時に心身共に逞しく、明朗活発で、自らが選択した職種の現場において即戦力として活躍できる人材の育成を図る。」という教育目標を掲げて、それを実現するために教育課程（カリキュラム）を編成・実施している。この課程を終えて、学位が授与されるためには、以下のことが求められる。

- ①所定の期間在学し、本学の教育理念・教育目標に沿って設定した授業科目を履修して、卒業要件単位数を修得する。
- ②体育・スポーツ科学及びマネジメント実践の研究を深め、多面的な履修を通じて基礎的な学習能力を養い、スポーツをビジネス

- との関連性からマネジメントするだけでなく、人々のスポーツライフにも積極的にマネジメントすることのできる専門的な知識を理解するとともに、これらを実践することのできる力を身につける。
- ③学科における専門的学習と学科を横断する

学習とを通じて、現代社会におけるスポーツならびにスポーツライフのマネジメントを深く理解し、課題探求心、問題解決能力、コミュニケーション能力などの総合能力を身に付ける。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本学は建学の精神に基づく教育使命を実現すべく、スポーツマネジメント学部にはスポーツマネジメント学科、スポーツライフマネジメント学科を置き、次の方針のもとに教育課程を編成し実施する。

- ①よき市民及び国際人として身につけるべき基本的な素養としての社会人基礎力を形成するため、スポーツマネジメント学部の学部共通科目では基礎教養に関わる教養科目と本学独自の総合科目を配し、調和のとれた人間力をたかめる。
- ②体育・スポーツ科学を専攻する学生として、スポーツマネジメント学部専門（理論）科目と学部専門（体育実技）科目を学修し、スポーツを通じて人間の心身さらには生命に至るまで、基本的な知識や実践力を修得する。
- ③各学科において、当該専門分野の基幹となる学科基礎科目と学科専門科目を学修するとともに、多様で実践的な科目を通じて、さらに高度な知識や実践力を修得する。

- ④体系的かつ専門的な学修を通じて修得した知識、技術等を総合的に活用し、スポーツをビジネスとの関連性からマネジメントできるとともに、人々のスポーツライフも積極的にマネジメントできる思考と実践力を獲得する。

a スポーツマネジメント学科

スポーツを取り巻くさまざまな経済的価値を俯瞰する中で、世界中で展開しているスポーツイベントやスポーツ施設経営などの様々な事業にビジネスチャンスを見つけ出し、スポーツの奨励・促進のための活動を支援することのできる理論や技術について学修する。また、個人及び団体等の各種のスポーツ関連事業と連携して、新たな価値を創出

するために、当該産業の事業をマネジメントしうる知識と技術を修得できる本学独自のプログラムを設ける。

b スポーツライフマネジメント学科

すべての人々に生涯にわたって心身の健康な生活を提供し、かつまた健康寿命の延伸を図ることを目的に、ライフステージに応じてスポーツや運動を処方し、競技スポーツだけでなく健康スポーツを自ら示範して指導することのできる理論と方法を学修する。加えて、スポーツを通して人々が相互に関係性を生きたことのできるスポーツを基盤としたコミュニティを形成するための知識と技術を修得できる本学独自のプログラムを設ける。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

日本体育大学は、『體育富強之基』を建学の精神（教育理念）として、体育及びスポーツ

を通して全ての人々の願いである「心身の健康」を育むとともに、世界レベルの優秀な競

技者・指導者の育成を一貫して追求し続けてきた。本学は、体育・スポーツの科学的研究

→アドミッション・ポリシー(入学者受入の方針)

を基に、競技力の向上や豊かな社会の実現に向け多様な学修(「実践」と「理論」)を展開し、特に身体を動かすことによって、認知された人間の運動感覚(＝身体知)の諸問題について、分析や検討を加え、そこから得られた新たな知見を再びスポーツの現場に活かしている。こうとする双方向の試みを積極的に展開している。

そこで、スポーツマネジメント学部では、「一般入試」及び「推薦入試」等の入試を実施し、一定の基礎学力と運動能力を持ち、スポーツを通して幸福で豊かな生活を営む権利をすべての人々に保証し、健康に長寿を享受できる社会を創造するとともに、スポーツによる社

会・経済の活力の創出を通して地域社会の再生を図るために、各種のスポーツ行動のマネジメントに関する知的好奇心の旺盛な者を幅広く迎え入れることとしている。本学独自の実践と理論との一体的学修の成果を基に、豊かなスポーツライフの推進、スポーツイベント

の運営、スポーツ施設の管理、スポーツの経済的活動の支援等ができるよう眼前の課題に対して総合的かつ実践的な解決を真摯に探究できる者の入学を期待するものである。

【入学時までに身に付けてほしい学力・能力】

本学は体育及びスポーツの科学研究を基に、競技力の向上や健康で豊かな社会の実現に向け多様な学修(「実践」と「理論」)を展開している。そこで入学時までに次のような学力や能力を研いて、これらの学修に臨むことが期待される。

国語や英語で学んだことを基盤としたコミュニケーション能力、地理歴史や公民等を通じた地球規模で今日の社会を読み解く力、さらには数学や理科等で学んだ思考力に基づき、スポーツ等を客観的に分析する力等である。

児童スポーツ教育学部

ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

児童スポーツ教育学部は、本学の「教育目標」に沿った人材を育成するため、独自の教育プログラムを展開する。この課程における、卒業認定と学位授与【学士(児童スポーツ教育学)】の要件は、以下の通りである。

【児童スポーツ教育コース】

- ① 体育スポーツ学及び教育学・保育学を融合させた諸科目の多面的な履修を通じて、児童スポーツ教育に関わる基礎的な知識と技能、実践的な指導力を身につけている。
- ② 現代社会における児童の発達と教育、スポーツや健康に関わる諸問題を探究し、それに対応し解決に向かうことのできる資質・能力(思考力・判断力・表現力を含む)を身につけている。

- ③ 児童スポーツ教育において生じる諸問題に関心を持ち、その解決に向けて努力する意欲と多くのステークホルダーと協働できる資質を身につけている。

【幼児教育保育コース】

- ① 体育スポーツ学及び教育学・保育学を融合させた諸科目の多面的な履修を通じて、幼児教育保育に関わる基礎的な知識と技能、実践的な指導力を身につけている。

- ② 現代社会における幼児の発達と教育・保育、運動遊びや健康に関わる諸問題を探究し、それに対応し解決に向かうことのできる資質・能力(思考力・判断力・表現力を含む)を身につけている。

- ③ 幼児教育保育において生じる諸問題に関心を持ち、その解決に向けて努力する意欲と多くのステークホルダーと協働できる資質を身につけている。

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

児童スポーツ教育学部は、「卒業認定・学位授与の方針」に則って、次の通り、「教育課程編成・実施の方針」を定める。

- ① 全学共通の「総合科目」と学部共通の「言語コミュニケーション科目」、「教養科目」を基盤とするともに、1年次から4年次までを貫く演習科目を基軸として、児童スポーツ教育学部の教育課程を構成する。
- ② 「体育スポーツ学」、「教育学・保育学」、「その複合領域」からなる児童スポーツ教育学科の基幹科目を設けるとともに、本学の特色である「スポーツ実技」科目を設ける

【児童スポーツ教育コース】

- ① 小学校(幼稚園)の教員に求められる全教科の指導や学級指導、学校行事やクラブ活動の指導等を適切に行えるための基礎となる科目や応用・発展的科目、教育現場の実際に関わる多様な科目を設ける。
- ② 児童の体育・スポーツや健康に関連する指導・支援において優れたリーダーシップを発揮するための能力と資質を育成するための基礎となる科目や応用・発展的科目を設ける。

- ③ 学校と地域とを結んで児童のスポーツ活動の指導で求められる知識と技能、実践的指導力が体得できる独自のプログラムを設ける。

【幼児教育保育コース】

- ① 幼稚園の教員・保育士に求められる全領域の指導やクラスの指導、行事の指導等を適切に行えるための基礎となる科目や応用・発展的科目、教育・保育現場の実際に関わる多様な科目を設ける。

- ② 保育者に求められる総合的な指導・援助、保育内容の領域と指導、教育・保育現場の実際に関わる多様な科目とともに、4年間を通して教育・保育現場での実習科目を配置し、現場との往還を重ねながら理論や知識と実践を結びつけられるプログラムを設ける。

- ③ 教育・保育現場や地域において、幼児の運動遊びや健康の指導で求められる知識と技能、実践的指導力が体得できる独自のプログラムを設ける。

アドミッション・ポリシー(入学者受入の方針)

児童スポーツ教育学部は、その「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」に沿って、入学試験を実施する。

【求める人材像】

- ① 国語、英語等で学んだことを基盤とした言語能力及びコミュニケーション能力を有している。
- ② 地理歴史、公民等を通じた地球規模で現代社会を読み解く力を有している。
- ③ 数学、理科等で学んだ思考力に基づき、体育・身体活動・スポーツを客観的に分析する力を有している。

- ④ 保健体育、芸術等で研いた感性と創造力から、人間の心身の可能性(スポーツ・芸術・文化)について探究する力を有している。
- ⑤ 種々の課外活動を通じて身につけたチームワークや実践力を有している。

【入学者選抜の種類】

入学者選抜にあたっては、上掲の高等学校等において修得すべき、知識・技能、思考力・

判断力・表現力、主体性・多様性・協働性、などを備えているか否かを評価するため、「総合型選抜」(AO入試)、「学校推薦型選抜」(推薦入試)、「一般選抜」(一般入試：含大学入試センター試験)、「特別選抜型」(帰国生・リカレント・IB資格・英語外部資格入試)、など多様な選抜区分を設ける。

保健医療学部

ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針)

保健医療学部は、本学の「教育目標」に沿った人材を育成するため、独自の教育プログラムを展開する。この課程における、卒業認定と学位授与の要件は、以下の通りである。

[整復医療学科]

整復医療学科では、豊かな人間性と倫理観に満ち、国際的視野を備え、スポーツとスポーツを通じた人々の健康に医療の立場から貢献する人材を育成することが社会から期待されている。このような人材を育成するため、所定の期間在学し、所定の133単位を修得した者に卒業を認定、学位【学士(整復医療学)】を授与する。

具体的な知識・技能及び応用力等は、次の通りである。

資質・能力

①知識・理解

- 我が国の伝統医療である柔道整復術に関する知識と技術を有し、適切に実践できる。
- 基礎医学と臨床医学に関する高度の知識を有し、科学的思考を身につけている。

- スポーツに関する幅広い知識を有し、スポーツによる身体への影響を理解できる。

②分野固有の能力

- 柔道整復師の業務を理解し、柔道整復術の適応と禁忌を判断して施術の客観的評価ができる。
- 運動器外傷に対し、適切な応急手当から社会・競技復帰までの治療ができる。
- スポーツ選手の外傷・障害に応じた適切な指導と管理ができる。

③汎用的能力

- 医療人として高い倫理観に基づき、主体的な判断ができる。
- 優れたコミュニケーション能力や協調性を有し、思いやりに満ちた行動ができる。
- ④態度・姿勢
 - 柔道整復術を実践し、国民の健康維持と増進の一翼を担うという自覚を持っている。
 - スポーツとスポーツを通じた人々の健康に医療の立場から貢献するという強い意志を持っている。

- 生涯にわたり自ら学び続ける習慣を身につけている。
- 国際交流の重要性を理解し、柔道整復師としてスポーツに関わりグローバルに活躍する国際性を身につけている。

[救急医療学科]

救急医療学科では、所定の期間在学し、次のような知識・能力等を身につけ、所定の単位を修得した者に卒業を認定するとともに、学位【学士(救急医療学)】を授与する。

- ①救急・災害医療に関する医学的・法的知識を有し、医療人として必要な倫理観を備えている。
- ②臨床現場において、科学的根拠に基づいて思考し、必要な医療技術が実践できる。
- ③現代社会におけるグローバル化に対応できる多様性を備え、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を有している

カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

保健医療学部は、「卒業認定・学位授与の方針」に則って、次の通り、「教育課程編成・実施の方針」を定める。

[整復医療学科]

整復医療学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、「学部共通科目」と「専門教育科目」を体系的に編成し、講義・演習・実習等を適切に組み合わせて授業を展開する。教育課程については、コースツリーにより体系的に明示する。

教育内容、教育方法、学習成果の評価、について以下の通りとする。

①教育内容

学部共通科目については、「言語コミュニケーション科目」「教養科目」「総合科目」「数理・情報系」「生物学系」「体育学系」の6つの科目群に区分する。専門教育科目については、「スポーツ科学」「人間の構造と機能」「疾病と傷害」「柔道整復術の適応」「柔道整復の理念と保健医療福祉」「社会保障制度」「基礎柔道 整復学」「臨床柔道整復学」「柔道整復実技」「臨床実習」「総合」の11の科目群に区分する。

②教育方法

- 講義：知識のインプット、アウトプットを繰り返して知識の定着と理解を深める。また、適宜グループディスカッションを行い、人の意見や解釈に多様性があることを理解する。
- 実習：参加型実習を重視している。倫理観、協調性、自己の役割と責任を認識し、主体的に考え、行動できるよう促す。さらに、プレゼンテーションの場を適宜設定し、知識の整理と人に伝える力の養成を重視する。
- 演習：知識の定着と技術の正確性を高めるため、反復して学習することを重視する。
- eラーニング：予習・復習を可能にし、学生個々人の主体的で活発な勉学意欲の促進を図る。
- 課外活動：特別解剖見学実習やインターンシップを学科独自で制度化して実施し、低学年で学んだ内容の復習の機会や将来像の創造のための自発的行動を促進する。
- 柔道整復師国家試験対策：柔道整復師国家試験対策プロジェクトを立ち上げ、1年次から習熟度確認のた

めの模擬試験を実施し、4年次においては課外活動として対策授業を実施する。さらに、モバイルラーニングにより、いつでもどこでも学べる環境を提供する。

③学習成果の評価

成績評価は、各科目の「授業科目のねらい・到達目標」に対する到達度を目安として採点する。成績評価の公正さと透明性を確保するため、シラバスに掲げた身につく能力(コミュニケーション能力、問題解決力、組織的行動能力、自己実現力、知識獲得力、実技能力、英会話能力)に応じて、筆記試験、プレゼンテーション、レポート、参加態度など適切な評価を組み合わせ、その配点比率を予め明示する。また、成績評価の客観性を維持するため、成績評価の終了後に試験問題やレポート課題の出題意図・講評などを学生へ告知し、成績分布を公表する。

アドミッション・ポリシー (入学者受入の方針)

保健医療学部では、その「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」に沿って、入学試験を実施する。

[求める人材像]

- ①国語、英語等で学んだことを基盤とした言語能力及びコミュニケーション能力を有している。
- ②地理歴史、公民等を通じた地球規模で現代社会を読み解く力を有している。
- ③数学、理科等で学んだ思考力に基づき、体育・身体活動・スポーツを客観的に分析する力を有している。
- ④保健体育、芸術等で研いだ感性と創造力から、人間の心身の可能性(スポーツ・芸術・文化)について探究する力を有している。
- ⑤種々の課外活動を通じて身につけたチームワークや実践力を有している。

[入学者選抜の種類]

入学者選抜にあたっては、上掲の高等学校等において修得すべき、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性、などを備えているか否かを評価するため、「総合型選抜」(AO入試)、「学校推薦型選抜」(推薦入試)、「一般選抜」(一般入試：含大学入試センター試験)、「特別選抜型」(帰国生・リカレント・IB資格・英語外部資格入試)、など多様な選抜区分を設ける。



図書館を使いこなそう！

体育・スポーツ、マネジメント教育、保健医療と日体大のフィールドはますます広がっています。それだけ、学び方も多様化していると言えるでしょう。また、大学生の主体的な学びも社会から強く要請されています。教室、現場での学びはもちろん、知の宝庫とも言えるのが図書館です。読む、調べるだけでなく、さまざまな活用方法があります。



利用ガイド

本学には、東京・世田谷キャンパスに「世田谷本館」、横浜・健志台キャンパスに「健志台分館」「保健医療学部図書館」を設置しています。体育・スポーツ関連の専門書を豊富に所蔵しており、学外の方の利用も多くあります。

	世田谷本館・健志台分館	保健医療学部図書館
開館時間	平 日 8:45～22:00 土曜日 8:45～19:00 日曜日 10:15～18:00	平 日 8:45～19:00 土曜日 10:15～18:00 日曜日 休館
休館日	①授業休業期間の日曜・祝日 ②開学記念日(9月20日) ③年末年始(12月29日～1月3日)	①日曜・祝日 ②開学記念日(9月20日) ③年末年始(12月29日～1月3日)

「開館時間」や「休館日」は臨時に変更する場合がありますので、「開館カレンダー」で確認してください。



日体大図書館の 実はココがすごい！

体育・スポーツ関連図書、貴重書、新聞web、電子書籍、雑誌など蔵書が充実しているのが日体大図書館の自慢。書名を見ながら書架の間を歩くだけでも知的好奇心が刺激されます。自動化書庫や自動貸出機などの便利なくみもあります。



① 自動化書庫

東京・世田谷キャンパス 教育研究棟の地下(BF)に、約40万冊収蔵可能な自動化書庫があります。自動化書庫は、コンテナの中に資料を格納しており、機械でコンテナを呼び出します。



② 体育・スポーツ関連図書 (オリンピック)

日体大図書館が所蔵する体育・スポーツに関する図書は、約12万冊！国内外の貴重な資料を集めています。オリンピックに関する資料も多く、公式報告書、写真集、ポスターなどの資料を所蔵しています。



③ 貴重書

専門図書館として、日本国内だけでなく海外でも珍しく、資料的に価値の高い貴重な体育・スポーツ・レクリエーション関連分野の図書を約1,000冊所蔵しています。



④ スポーツ漫画(英訳)

日体生に人気のスポーツ漫画に英訳版が仲間入りしました。アイシールド21、テニスの王子様、SLAMDUNKの3タイトルです。あの名シーンを、英語ではどう表現するのか気になりませんか？多読や英会話の学習などに、ぜひご利用ください。



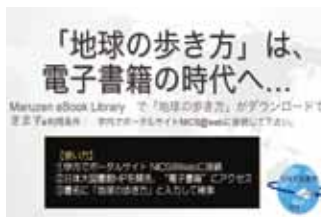
⑤ ベストセラーコーナー、 新書コーナー

月々のベストセラー書籍と文庫をそれぞれ10点、岩波新書、中公新書、講談社現代新書、ちくま新書など10レーベルの新書を継続的に購入し、世田谷本館・健志台分館の専用書架に並べています。



⑥ 新着図書コーナー

新しく受け入れた図書は、新着図書コーナーに並べます。利用者が興味を持ちそうな図書を選んで、表紙が見えるように置いています。“どんな図書を特にお薦めするか”が、図書館員の腕の見せどころ。新着図書の貸出率向上のための工夫です。



⑦ 電子書籍

日体大図書館は、電子書籍の提供も行っています。学内でアクセスすると、スマートフォンにダウンロードが可能！『地球の歩き方』を購入していますので、海外旅行や遠征にご利用ください。



⑧ 雑誌(冊子)・ 電子ジャーナル

約7,000タイトルの雑誌を所蔵。各競技団体が発行する雑誌など、一般の書店では売られていないような珍しい雑誌も購入しています。約9,000タイトルの電子ジャーナルも利用可能です。

⑨ 新聞web

学内のPCから朝日新聞、毎日新聞、読売新聞の記事を閲覧することができます。検索機能が付いているので、探したい記事をピンポイントに検索することができます。

1人で集中する。仲間と学ぶ。充実した時間が過ごせる閲覧スペース

閲覧席やパソコンエリアなど目的に応じたスペースを用意。世田谷本館にはグループ閲覧室もあります。



世田谷本館閲覧室



世田谷本館グループ閲覧室



保健医療学部図書館・自習室

図書館のお仕事



新刊本がみんなのもとに届くまで

図書館はみなさんの学修や研究をサポートするため蔵書の充実を図っています。新刊本がどのようにみなさんに提供されるのか、図書館の仕事の裏側を紹介します。

② 発注



選書された図書について、日体大図書館で所蔵していないか重複チェックを行いながら、データを入力し、各書店に発注をします。また、研究室本や希望図書の発注もしています。

① 選書・希望資料受付



冊子「週刊新刊情報」から分野別に複数の担当者で収集方針に則り選定します。希少な図書を実際に手に取って購入を検討することもあります。図書館に所蔵してほしい資料を希望するシステムもありますのでカウンターにお申し出ください。

③ 受入れ(番号付与)



図書やDVDなどが納品されたときは、タイトル(図書館では書名をこのように言います。)や金額を確認し、データを変更します。次に日体大図書館資料の管理番号を付与し、その番号のバーコードラベルを貼付します。

④ 目録作成(データ作成)



OPAC(オーパック:図書館検索システム)で検索できるように新しく入ってきた図書の情報を1冊ずつデータにしています。このデータ作成は各大学で協力して行っており、昨年度日体大の実績は2,186件登録し、24位(参加館数1,446館)でした。

⑤ 分類、請求記号付与



背表紙に貼られたシールが請求記号です。請求記号は1段目の「分類番号」と2段目の「著者記号」と3段目「巻次」からできています。日体大図書館では、「日本十進分類法」に基づき、図書の内容ごとに分類を付けます。これにより図書が探しやすくなります。

⑥ 装備



図書に請求記号が付与されてバーコードが貼付けられた状態で、装備係に回ってきます。小口印(蔵書印)・返却期日票・カバー留め(図書とカバーが剥がれないようにテープで留めます)等を行うことを「装備」と言います。

⑩ 乱れ直し



請求記号順に本が並んでいるかを確認して、乱れていたら直します。請求記号が剥がれていないか、図書から紐が飛び出していないか(電動書架の場合、故障原因にもなります。)を点検しています。

⑨ 返却



返却された図書の状態(破損、書き込みなど)や返却日を確認し、図書のバーコードを読み取ります。読み取った図書をカウンター後ろの返却棚に置きます。ある程度まとまったら、書架に戻します。返却の期限は必ず守ってください。

⑧ 貸出



学生証・教職員証を確認し、貸し出す図書のバーコードを読み取ります。図書1冊ごとに、後ろにある「返却期日票」に、返却日の日付印を押します。貸し出すときに、『〇月〇日までです。』と伝えます。また、自動貸出機を案内する時もあります。

⑦ 配架



図書や雑誌を書架(本棚)に並べることを「配架(はいか)」と言います。「図書や雑誌を書架に配置する」という意味です。図書は請求記号順、雑誌はタイトルのアルファベット順に並べます。授業のある期間は、学生アルバイトも配架作業を担当しています。

図書館利用の味方。各種サービスを活用しよう。

図書館はみなさんのためにさまざまなサポートを行っています。初めて利用する人も安心です。気軽にスタッフに声をかけてください。

① レファレンスサービス



資料の探し方をお手伝いするのが、レファレンスサービスです。図書館の資料を使って、みなさんの学習、研究をサポートしています。レポートなどの調べ物で困ったことがあれば、ぜひご相談ください。

② 利用教育



毎年4～6月にかけて、全学部の新入生対象に図書館オリエンテーションを行っています。その他に年に数回データベース講習会の開催、ゼミ単位での論文検索演習も随時行っています。ぜひ参加してください。

③ 相互利用サービス



利用したい資料が図書館にないときありませんか?日体大の学生、教職員向けに他大学図書館から資料を取り寄せるサービスがあります。図書や論文に対応しています。金銭的な負担はありません。



I Love 図書館

図書館で研究や教職の勉強に励んだ先輩たち。図書館でお気に入りの時間を過ごす学生や大学院生たち。そんな「図書館の達人」に思い出やとっておきの利用法を聞いてみましょう。

知識の宝庫で積極的に情報収集を



須永 美歌子 先生

(すなが・みかこ)
児童スポーツ教育学部・教授
運動生理学研究室

【図書館の思い出】

私は学生時代から“運動が身体に与える影響”に興味があり、知らない用語があれば、複数の本から情報を集めてノートにまとめていました。日体大図書館にある運動生理学関連の本は、すべて目を通したと思います。昔は図書館の方が作成してくださったカードで検索していましたが、今はインターネットが発達して、本当に便利になりましたよね。

【達人の利用術】

図書館の本は、書棚に並んでいるものだけではありません。図書館 HP のデータベースからも色々と検索できますし、自動化書庫に保管されている本や、電子ジャーナルもあります。それらを読むための方法を知らないのであれば、かなり損をしていますよ！自ら積極的に情報を入手して、様々な知識を身に付けてほしいと思います。

【お薦めの一冊】

『人間の許容限界事典』著者：山崎昌廣、坂本和義、関邦博編集 出版社：朝倉書店
食べない、眠らない…人間はどこまで耐えられるのか？生理学、心理学など多分野の論文を引用し、科学的に解説されています。

図書館の雰囲気以身を置いてみよう



齋藤 雅英 先生

(さいとう・まさひろ)
スポーツ文化学部・准教授
教育心理学研究室

【図書館の思い出】

“齋藤！「ふうとう」を読め！”声の主は恩師の長田一臣名誉教授。図書館に駆け込むが見つかりません。途方に暮れる私に図書館の方が、“それは井上靖の「風濤」じゃないですか”と。恥ずかしながら「ふうとう」は「封筒」にしか変換できていませんでした。真っ先に思い出す日体図書館の思い出はこのエピソードです。

【達人の利用術】

図書館を訪れて大学内の他所とは違う、肅然とした雰囲気の中に身をおいてみましょう。自然と本を手にとってみたくなると思います。いきなり難しい本でなくても、例えば“マンガでわかる”で図書館の本を検索すると60件以上がヒットします。そこから始めて、ちょっとその先に進んでみたいかがでしょうか。

【お薦めの一冊】

『オブティミストはなぜ成功するか』著者：マーティン・セリグマン 出版社：講談社
成功したスポーツ選手はオブティミスト(楽観主義)で、成功するための考え方を具体的に解説しています。

日体大図書館は体育・スポーツの聖地



尾川 翔大 さん

(おがわ・しょうた)
体育科学研究科体育科学
専攻 博士後期課程3年

【図書館の魅力】

日体大の図書館は、体育やスポーツに関する資料が豊富に所蔵されていることで著名です。それゆえ、体育やスポーツに関心を寄せる実に様々な人たちがここを訪れます。日体大の図書館をくまなく散策してみると、世界中どこを探してもここにしかない資料に出会うことができます。そうした貴重で価値あるものに日常的に触れられることは、幸せというほかないでしょう。日体大の図書館は、体育やスポーツに愛着をもつ人たちにとって聖地です。

【お薦めの一冊】

『江夏の21球』著者：山際淳司 出版社：KADOKAWA
不世出の作家によるスポーツノンフィクションの傑作集。モノグラフとしても秀逸を極める本書は読み手をスポーツの現場へ誘います。

使い方さまざま。気軽に利用しましょう



高井 千聡 さん

(たかい・ちさと)
体育学部 体育学科3年

【図書館の魅力】

日体大の図書館には小説や専門図書、スポーツ漫画、DVDなどが多く取り揃えられています。最近では、英語版のスポーツ漫画も購入されています。学生スタッフとして図書館業務をしている中で体育関係の図書や雑誌が充実していると感じました。他にもパソコンやDVDの閲覧が可能なAVルーム、閲覧室、グループ閲覧室が完備されており授業の調べものや卒業論文の作成など勉強をする環境も整っています。ぜひ、利用してみたいかがでしょうか。

【お薦めの一冊】

『風が強く吹いている』著者：三浦しをん 出版社：新潮社
寄せ集めの大学生が箱根駅伝を目指す物語。『走る』ことを通じ、ひたむきに努力することの大切さがわかる作品です。

教職支援センター

Report ③



子どもの成長に寄り添えるのが魅力。 教員は一生をかけるのに値する仕事である。

小学校教員を経て、研究・実践の道に進んだ近藤先生。

学生・院生の指導および教職支援センターの業務に多忙な日々を過ごしています。

教員志望の学生に対してはもちろんのこと、研究を通して出会う先生方にも、
同じ目線で親身に寄り添うのが先生のスタンス。その根底には、子どもたち、

そして教員の仕事への深い愛情があると言えるでしょう。

小学校教員の仕事の魅力、心がけるべきことなどを、熱く語っていただきました。

学び続けることを大切にし、
小学校教員への道を確実にする

近藤先生の専門は「体育科教育学」「スポーツ教育学」。教員志望で北海道での小学校教員生活が出発点だった。研究の道に進んだのは、学問的な知見を広く実践に活かしていきたいと思ったからだという。この分野に興味を持ったのは大学時代にドイツのユニークな体育指導法に接したことがきっかけだった。できるできない、勝ち負けではなく、楽しさや人とのかわりに重点を置いた指導に大いに刺激を受けた。教職支援センターはもちろん教員採用試験に合格することが支援目標だが、夢に向かって努力を継続すること、教員になってからも学び続けることの大切さを先生は説く。

——まず、近藤先生の研究のテーマと、研究内容を教えてください。

まず一つは小学校や中学校を訪問して、体育授業の調査研究をしています。体育の授業で先生が子どもにどんな言葉を掛けたか、例えば「よくできたね」などの肯定的な言葉や、あるいはネガティブな言葉を何回使ったか、またどのように子どもに接したかなどを数値化しています。授業の上手な先生は子どもを無意識に褒めたり、絶妙なタイミングで接触したりして授業の方法を職人技のように体得しています。その技の本質をデータ化して理論として構築します。それを共有することで授業の内容を向上させるための研究です。

もう一つはドイツのスポーツ授業の研究です。かつて私はドイツに留学していたのですが、キックボードで走り回ったり、陸上ホッケーをしたりと指導法がユニークで刺激的でした。そこでドイツの体育授業を研究しビデオなどに記録しています。それを学生に見せることで、多視点の

◆教職支援センターInformation

本学では、例年数多くの教員を輩出してきました。今なお教員を目指し入学する学生が大半を占める中、教員を志す学生に対し、大学4年間を通じて基礎知識・教養はもちろんのこと、即戦力となるべく、応用力・実践力などより質の高い教員を教育の場へ送り出すための支援を目的として平成28年度より「教職支援センター」を設置しています。

■開設時間

月曜日～金曜日 8:30～17:00

休業：土曜日、日曜日、祝日(学年暦に準ずる)

■問い合わせ先：日本体育大学 教職支援センター

東京・世田谷キャンパス 03-5706-0914

横浜・健志台キャンパス 045-479-7355

な視点を持ち、いろいろな授業法があることを知ってもらうことを目的とした研究です。

——その研究をもとに、学外ではどのような活動や取り組みをされていますか。

私たちの研究室では、小中学校の現職の先生方を長期研修教員として毎年数名受け入れていています。その先生達と一緒に様々な授業研究をしています。現在、ある小学校では、中学年の子どもたちにバレーボールのようなネットを挟んだゲームをやってもらっています。それを通して、どうチームを組んでいくか、どう作戦を立てていくかなど、考える力をつけてもらう授業をしてもらっています。また、別の小学校では高学年の子どもたちを対象に、跳び箱の授業をしてもらっていますが、そこで子どもたちに道徳的な話をする試みをしました。例えば「大谷選手は頑張っているね」とか「イチロー選手は道具をとっても大切に選手なんだよ」という話をする、子どもたちは課題にチャレンジしたり、跳

び箱やマットをいねいに扱い、片付けるようになったりしました。このように学校現場の先生達と一緒に、授業研究が続いています。小学校の先生方はとても忙しいのが実情です。さらに様々なニーズがあり、その要望が高くなっています。

——では、小学校の教員に求められる資質とは。また、どういう経験をしておくとよいでしょうか。

小学校教員に必要な基礎的な勉強をするのは大前提です。そのうえで探究心、チャレンジする気持ちを持ち続けることが大事です。またいろいろな子どもたちの環境や状態に共感し、あらゆることを想像して対処できる能力や気持ちも大切です。ある意味、医師に通じるところがあります。患者の状態を想像して共感する。そうなるには信頼関係をいかに築けるかが重要になってきます。

また多様な経験をしてほしいです。クラブ・サークル、アルバイト、ボランティア、社会福祉活動などなんでもいいのです。なかでもつらい仕事を引き受ける、試合などで負ける、ある程度の挫折を経験する、こういう経験はそのときはつらいかもしれませんが、非常に大切です。子どもに限らず、常に満たされている人はおらず、大小いろいろな問題を抱えています。そのつらい状況を受け入れられるかは、教員として必要なことだといえます。

さらに人間関係を学ぶには恋愛は最適かもしれません。恋愛は好き、嫌いという局面のことなので、自分が好意を持っている人を自分に振り向かせるためにいろいろ考え、対策を考える。同じことを繰り返してもダメなので、いろいろ工夫する、それが子どもにも好意を持ってもらうのと同じではないかと思っています。

私は学生時代にお金がなく、学部から

大学院のときまでいろいろなアルバイトをしたり、教員のとき保護者の方に助けてもらったりしました。私はエリートではないので、いろいろな困難がありました。その経験は確実に今をつくり上げています。

——日体大の学生が教職の現場で発揮できる強みはどんなことか。

日体大の学生は運動好きで、なおかつ体力があるのが大きな強みです。というのは、小学校では教室で授業をするだけでなく、外での体育、遠足、掃除など体を動かすことが多くあります。そこで体が動くのはとても有利です。また、突然走り出すなど、最近ときどき見かける多動傾向のある子どもを追いかけて保護できるというのも、子どもの安全を考えると大きなアドバンテージでしょう。

また、体育ができる先生は子どもにも好かれ、人気のある先生になる傾向もあります。ただ、そのことに甘んじず、学び続けることは大事です。

——教職支援センターの副センター長である近藤先生から、教職支援センターのサポート体制について紹介してください。

教員採用試験の対策講座を年間を通じて開講し、筆記試験や模擬試験、宿泊研修などを行い、心構えなども学べる場を提供しています。また日体教学舎を設置し、教員を目指す学生が切磋琢磨し、模擬授業をしたり、今の学校が抱える課題などについて議論したりします。各自自治体と連携し、指導補助など現場を体験する教育ボランティアも行っています。

教員を目指す学生に対して合格者から勉強法をはじめとした経験談を聞く合格者座談会など、万全でさまざまな支援をしています。

小学校の教員は困難なことも多いと思いますが、子どもの成長に寄り添える非常に魅力的な仕事です。さらにその成長に影響を与えることになるので、責任は大きいですが、他に代えがたい貴重な経験ができる場でもあります。子どもが好きだったり、教育に興味があったりするなら、是非ともチャレンジしてほしいです。



◆プロフィール

近藤智晴(こんどう・ともやす)

児童スポーツ教育学部 児童スポーツ教育学科 教授
1970年、東京都生まれ。1994年、宮城教育大学教育学部卒業。96年、愛知教育大学大学院教育学研究科修了、北海道・利尻富士町の小学校教員を経て、2006年、筑波大学大学院人間総合科学研究科博士課程修了。筑波大学大学院のとき約2年間、ドイツに留学、ハンブルク大学にてドイツのスポーツ教育学を研究する。白鷗大学准教授を経て、11年より日本体育大学准教授、15年より現職。子どもと過ごすときが、最高にリラックスできる時間だという。

Next is us

日体魂の聖火リレー

～日体魂を受け継ぐ者～

05

池 愛里

パラ競泳

恵まれた体格と持ち前の明るさが、
今の池選手を後押しする。
目指すのは、大学生活最後の年でもある
二年後の東京パラリンピック。
苦手だったバタフライを強化種目として
プレッシャーを楽しみに変え邁進していく。



——水泳を始めたきっかけ

小学3年の時に滑膜炎腫（かつまくにくしめ）という腫瘍が見つかり、摘出後のリハビリに水泳がいいというところで始めたのがきっかけです。そのうち、好タイムが出るようになると泳ぐことが楽しくなって、水泳スクールの強化コースに移動するとさらに結果がついてきました。

幼い頃から体格には恵まれていて、背の順では常に、後ろから数えた方が早かったです。当時、左足のまひが残りながらも普通の子ども達と一緒に泳いでいたことが今となっては競つことへの強みになったと思っています。

ハンディがあるからこそ今の自分があるという人がよくいますが、私はそうは思わないです。ハンディがあるないに関係なく、今自分が出せる結果に注力する。やはり自分自身に勝つことなのではないでしょうか。

——日体大への進学を決めた理由

大学進学は色々な選択肢があるなかで悩んだことは確かですが、水泳をやること決めたからには練習が一番厳しいところにしよう、高みを目指すなら日体大しかないと思いました。そうは言っても最初は甘く考えていましたから、入学してみても現実を知りました。朝は4時半に起きて朝練、夕練も暗くなるまで練習して帰って寝るだけという毎日です。一日二回の入水の他に、左足のまひをカバーするために上半身のトレーニングも欠かせません。タイトな日々のなかで、それでも耐えられるのは、世界に通用する選手達が日体大にはたくさんいて、彼らが自分以上の厳しい練習をこなしている姿を見ているから。まだまだ私もやれるんだと刺激を受けています。

また、練習の合間でのキャンパスライフは何よりのリフレッシュになっていて、特に友達との時間は一番楽しいです。ラグビーの中山さん、大竹さん、サッカーの茨木さんの四人組でいつも女子トークで盛り上がっています。

勝負の瞬間は無心に。 自分に負けない精神を鍛え上げる。

——ハンディと向き合う

実は、パラリンピックを目指すまでは、父と私は障害を受け入れることができていませんでした。他の人や同じ病気をした友達に比べたら、特に生活の中であまり大変さを感じずにいたので障害者手帳を受け取るという選択はありませんでした。そんな時でも前向きな母だけは違っていたのです。障害者手帳があれば、優遇される施設もあるし、色々な公共サービスが受けられるからと、突然申請に行こうと言いついた時には拍子抜けしました（笑）。父は手帳を申請することに抵抗はあったようですが、母は明るく覆してくれたのです。ところが、そのことがきっかけで、中学2年の時にパラリンピックへの出場資格があることを知りそして高校2年の夏、リオのパラリンピックに出場しました。

——競技で結果を出すために大切なこと

やはり、レース前が一番緊張します。ウォーミングアップをしてそのあとに15分間の待ち時間があり、このときはものすごい緊張感が走って何度やっても慣れません。ですから、待ち時間は逆にレースとは全く関係ないことを考えるようにしています。例えば、好きな映画のワンシーンを思い浮かべたり、今日の夕ご飯は何にしようかと考えたり（笑）。そして自分の番が来て呼ばれたらもう無心です。スタート地点では、結果を出すことだけに集中します。

今、大会に向けて

ベストコンディションに持っていく取り組みの一つとして、肉体だけでなくパフォーマンスの司令塔でもある脳を活性化させる「脳波トレーニング」というものを定期的に受けています。レースでの集中力を高め



◆プロフィール

池 愛里 (いけ・あいり)

体育学部 2 年、水泳部所属、東京成徳大高校卒。14 年アジアパラ競技大会で 50m 自由形優勝 (アジア記録)、16 年リオデジャネイロパラリンピック競泳で女子 400m リレー (運動機能障害) 6 位入賞。小学 3 年の時に滑膜肉腫を患い、除去手術後の後遺症として左足のまひが残りリハビリのため小学 5 年から水泳を始める。障害者手帳取得を機に、パラリンピックを目指し強化選手となる。



るために非常に効果的とされていて、最近では気持ちを保つことがうまくなってきました。

—— リオから東京へ向けて

現在の目標は、やはり二年後の東京パラリンピックです。ちょうど大学 4 年という学生生活最後の年に大きな舞台があるので、今はそこに照準を合わせて色々な大会で一つひとつ結果を残すことに注力しています。

もちろん、目標は金メダル。リオでは 7 種目に出場して団体で入賞したものの、個人種目で結果を残せなかったため、経験を踏まえて東京では確実に掴んでいきたいです。

とにかくオリンピック・パラリンピックは他の大会

と全然違います。これがパラリンピックなのだとあらためて思います。決勝の補欠に何度か残っていた時のことです。補欠でも決勝の選手達と収容所でレース順を一緒に待つのですが、選手達の勝負にかける意気込みが凄くて目力が半端ではなかったです。あの緊迫した場の雰囲気味わえたのは東京に向けていい経験になりました。

さらに今大きなチャレンジに出ています。リオでメインとしていた背泳ぎではなく結果が出せた 100m バタフライを強化種目にしました。一番苦手でしたが一番ハードな種目なのですが(笑)。でも、これでさらに結果が出てくれば他種目も余裕を持って大会に臨めるようになると思います。

[Next is us 日体魂の聖火リレー]

◆阿部一二三選手からの質問に答えて

『私はプレッシャーがあるのは当然で、克服すべきものだと考えていますが、プレッシャーに対してどのように戦っていますか?』

大きな大会に出させていただけるようになってからは、阿部さんの言うプレッシャーがあるのは当たり前なので、敢えて自分から背負う必要はないのかと思うようになりました。プレッシャーを感じると楽しめなくなるから、いかに競技を楽しめるかを考えています。

次に登場するアスリートに向けて、池選手からエールをいただきました。

◆池選手からのエール

東京オリンピック・パラリンピックまであと 2 年です。練習や様々な大会で、途中スランプで苦しい時もあると思いますが、考え過ぎず、お互いに悔いが残らないようにできることをやりきって本番を楽しみに迎えましょう。

次号アスリートへ、リレー質問を展開していきます。ご期待ください。



学びの深化、広がりをもつ 新たなスペシャリスト

日体大の学びに新風を吹き込む新任教員の方々。

2018年度、「スポーツマネジメント学部」が開設。

これをはじめ、「身体に纏わる文化と科学の総合大学」を標榜する
本学の教育体制はいつもの充実が図られています。

スポーツ、教育、医療、マネジメント・ビジネスなどの知見と
経験豊富な新たな先生方が

学生の指導に加わります。

授業や諸活動等で先生方から積極的に知識を吸収し、
自らの学びや世界観を広げていきましょう。



良く学び、遊び
多くの良き友人を
作ってほしい

岩原 文彦

(いわはら ふみひこ)

体育学部 体育学科 准教授

研究テーマ：より効果的なコーチングを行うための考え方、科学的データの解釈および活用について検討し、学際的な観点からコーチング学を捉え実践的に研究を進めます。

学生時代の思い出：水泳部に所属し3年生までは選手として、4年生では選手兼学生コーチとして後輩の指導をしていました。当時流行っていた「科学的トレーニング」について興味がわき、勉強してみたいと思ったのを覚えています。

日体生へひと言：大学生活で得た経験や人間関係は、一生の宝になります。良く学び、良く遊び、そして、良き友人を沢山作ってください。

こんな人(趣味)：映画鑑賞

①東京都／②コーチング演習、スポーツトレーニング論B、コーチング学特論／③日本体育大学大学院体育学研究科修士課程修了、日本体育大学大学院体育科学研究科博士後期課程修了、国立スポーツ科学センタースポーツ科学研究部研究員、日本スポーツ振興センターハイパフォーマンスサポート事業部競泳パフォーマンス分析担当／④博士(体育科学)(日本体育大学)



「今」を大切に
4年間を全力で
過ごしてほしい

大塚 幹太

(おおつか かんた)

体育学部 体育学科 准教授

研究テーマ：体育科教育法、保健科教育法、部活動の影響についての実践的研究を行ってきました。「わかる」「できる」保健体育の授業や部活動を探索していきたいと考えています。

学生時代の思い出：学外の教育団体に所属し、関東のみならず、全国の大学生の仲間たちと「教育」「指導法」などについて、毎日のように夜通し語り合ったのは良い思い出です。そこでの沢山の経験が教員への道へと導いてくれたと思っています。

日体生へひと言：この4年間は二度と戻らない貴重な4年間です。将来の夢の実現のためにも「今」を大切に、一生懸命になってみてください。Seize the day, boys. Make your lives extraordinary. (和訳：今を生きて若者たちよ。すばらしい人生をつかむのだ。)

こんな人(趣味)：サッカーの指導やスノーボードなどを、様々な分野、様々な職種の人たちと関わって楽しむことが好きです。

①東京都／②体育科教育法、体育科教育実践法、保健科教育法／③日本体育大学体育学部武道学科卒、日本体育大学大学院体育学研究科保健体育科教育コース修士課程修了、東京都立中学校教諭・主幹教諭(保健体育)／④修士(体育学)(日本体育大学)



多くのことに
トライして
ほしい

篠原 秀典

(しのはら ひでのり)

体育学部 体育学科 助教

研究テーマ：ソフトテニスの心技体に関しての競技特性を明らかにし、競技現場や指導現場で役立つような研究を行いたいと思っています。

学生時代の思い出：学生時代は、ソフトテニスに明け暮れる毎日、苦しい・悔しい体験や嬉しい・楽しい体験も全て含め、ソフトテニスが大好きでした。仲間にも恵まれ毎日がとても楽しくて充実していた覚えがあります。

日体生へひと言：この大学で、教わるから学ぶ。受け身ではなく、体育・スポーツまたは学問に関して、様々なことに興味を持ち、自分の好きなことを見つけて思い切り学んで下さい。失敗を恐れず、自分の発想やアイデアを信じ、多くのことにトライして欲しいと思っています。その手助けがしたいです。

こんな人(趣味)：子どもと遊ぶのが一番の楽しみです。

①群馬県／②運動方法・テニス／③日本体育大学体育学部体育学科卒、日本体育大学大学院体育学研究科博士前期課程修了、宮城学院女子大学教育学部教育学科助教／④修士(体育科学)(日本体育大学)



日体大の環境で
自らの可能性を
開拓してほしい

田村 優樹

(たむら ゆうき)

体育学部 体育学科 助教

研究テーマ：「効果的なトレーニング」や「リハビリテーション」の創出を見据えて、分子・細胞生物学の手法を用いた基礎研究を展開しています。

学生時代の思い出：高等学校の保健体育の教員を目指し日体大へ入学後、在学中に所属していた陸上競技部の活動や受講した講義を通して、「人体の不思議」に魅了されました。在学中の経験は、研究職に就くきっかけとなりました。

日体生へひと言：あらゆる学問・競技のスペシャリストが日体大の教員に揃っています。また、運動・実験施設や図書館など大変充実した研究・学問環境が整っています。このような環境を存分に活かして、様々なことに挑戦し、自らの可能性を開拓して欲しいと思います。そして将来は、あらゆる分野でリーダーとして活躍されることを願っています。

こんな人(趣味)：コンビニの新商品はとりえず試します。

①兵庫県／②スポーツ生理学、スポーツ研究B／③日本体育大学体育学部体育学科卒、東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻生命環境科学系博士課程修了、独立行政法人日本学術振興会特別研究員(DC2/PD)、日本体育大学運動生理学研究室/総合スポーツ科学研究センター研究員、Post-doctoral Fellow, Muscle Health Research Centre, York University／④博士(学術)(東京大学)



悔いのない 大学生活を 送ってほしい

生川 岳人

(なるかわ ぐくと)

体育学部 体育学科 助教

研究テーマ：ハンドボール競技における指導現場や選手に対して、最も効果的なコーチングに関する研究を行っています。
学生時代の思い出：ハンドボール部に所属し、練習に明け暮れた学生生活でした。仲間と共に4年間寮で生活をし、インカレで4連覇する事が出来ました。学生時代の仲間は、私にとって宝物です

日体生へひと言：大学生活の4年間、長く感じるか、短く感じるかは「自分次第」。勉強やクラブに打ち込み、悔いのないよう大学生活を送って下さい。

こんな人(趣味)：子どもと公園に行きどンドン出来る事が増え、成長を感じる事が今の幸せです。

①愛知県／②運動方法・ハンドボール、スポーツ実践指導法・ハンドボール／③日本体育大学体育学部体育学科卒、日本体育大学大学院体育研究科博士前期課程修了、神奈川県私立高等学校教諭(保健体育)、日本体育大学スポーツ専門職、日本体育大学助教C(任期制教員)／④修士(体育科学)(日本体育大学)



思いや夢に 全力で 取り組んでほしい

湯元 健一

(ゆもと けんいち)

体育学部 体育学科 助教

研究テーマ：レスリングのトップレベル選手のコーチングや、ジュニアレスリングのコーチングに関しても研究しています。
学生時代の思い出：入学直前に怪我をしてしまい良いスタートが切れなく、非常に悔しい思いをしました。そのことがきっかけとなり、コンディショニングやトレーニング、競技力向上に関わる授業に興味を持ち熱心に学びました。毎日が充実し、多くの仲間と楽しいことや辛いことがたくさんあり、レスリングと学業に没頭していた日々を思い出します。

日体生へひと言：日体大での毎日は今しか過ごせない時間です。思うことや考えていることに全力で取り組んでください。また、教員や事務の方に気になることや知りたいことを、気にせずどンドン聞いてみてください。必ず自身の財産となることが聞き出せると思います。

こんな人(趣味)：家族と過ごす、ドライブ、休日に子供と温泉巡りをしてリフレッシュ。

①和歌山県／②スポーツ実践指導法・レスリング、運動方法・レスリング／③日本体育大学体育学部体育学科卒、日本体育大学大学院体育科学研究科博士前期課程修了、ALSOK総合警備保障株式会社特別スポーツ強化選手、日本体育大学スポーツ専門職レスリング部コーチ、日本文理大学職員レスリング部コーチ／④修士(体育科学)(日本体育大学)



学びを活かし 世界や地域での 活躍に期待

齊藤 隆志

(さいとう たかし)

スポーツマネジメント学部
スポーツマネジメント学科
教授

研究テーマ：みるスポーツに関するマネジメントに関する研究。人々の生活を豊かにしたりまちづくりするためのマネジメント方略を様々な視点から研究しています。

学生時代の思い出：中学生から陸上競技をやり、大学では陸上競技部に所属し110mハードル専門でした。大学4年の4月に健志台グラウンドで開催された日体大記録会に参加し、インカレ標準記録を突破できました。とても思い出に残っています。

日体生へひと言：スポーツマネジメントは、競技者にとっては自己管理やセカンドキャリアに、コーチにとってはチーム作りや選手管理に、教員にとっては学校運営に役立ちます。またスポーツ団体職員や行政職員が様々な政策を考えるときや、広告代理店やマスメディアでのイベント開催や番組制作に役立ちます。学びを活かし世界や地域で活躍してください。

こんな人(趣味)：野菜や花を育てること。料理すること。軽登山とサイクリングすること。

①神奈川県／②スポーツマネジメント論、スポーツマネジメント研究／③筑波大学体育専門学群卒、筑波大学大学院修士課程体育研究科修了、筑波大学体育センター技官、東日本国際大学経済学部専任講師、日本女子体育大学体育学部教授／④体育学修士(筑波大学)



知る喜び 学びの楽しさを 身につけよう

佐藤 潤

(さとう じゅん)

スポーツマネジメント学部
スポーツマネジメント学科
教授

研究テーマ：スポーツビジネスの現場で実務を20年余り携わってきました。その経験を基にしてスポンサーシップ論を中心にスポーツマーケティングについて研究しています。

学生時代の思い出：山登りに熱中していました。他にもスポーツにバイト、クラブ活動、恋に友達、勉強もちょっと頑張りました。後から思うとモラトリアムながら楽しい大学生活でした。

日体生へひと言：「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥。知らぬは一生の後悔。」です。知らないことを知る喜び、学びの楽しさを是非身につけてください。教えてくれる人にたとえ後輩でもリスペクトの気持ちを持って接していると知らず知らずに成長できます。

こんな人(趣味)：50歳を過ぎてからフルコンタクト空手を始めました。週末は道場で汗を流しています。

①愛媛県／②スポーツ産業論、スポーツビジネス論／③中央大学商学部商業貿易学科卒、株式会社電通、東京富士大学経営学部イベントプロデュース学科非常勤講師／④商学士(中央大学)



日体大で チャレンジする 学生生活を

高荷 英久

(たかに ひでひさ)

スポーツマネジメント学部
スポーツライフマネジメント学科
助教

研究テーマ：野外教育。野外活動(主にキャンプ)の指導法やプログラム、歴史といった研究に取り組んでいます。

学生時代の思い出：小中高とサッカーをしていたのが友人に誘われてキャンプ・インストラクター・アカデミー、山岳部に所属。そこからアウトドアの楽しさにはまり、アウトドア漬けの学生生活でした。たくさんの仲間にも恵まれ現在でも顔を合わせると学生時代の思い出話が必ず出ます。

日体生へひと言：何にでもチャレンジしてください。新しい一歩を踏み出す労力は想像以上大変ですが、その一歩が必ず今後の役に立ちます。なんとなく過ごした学生時代ではなく、チャレンジし続けた学生時代をこの日体大で過ごしてください。

こんな人(趣味)：野外活動全般。子どもとキャンプやスキーに行くのが楽しみです。

①石川県②野外教育概論、野外活動実技、ネイチャーゲーム③大学院体育科学研究科博士課程単位取得満期退学、公益財団法人武蔵野生涯学習振興事業団／④修士(体育科学)(日本体育大学)



外国語に触れ ながら自分のもの にする努力を期待

西村 拓也

(にしむら たくや)

スポーツマネジメント学部
スポーツライフマネジメント学科
教授

研究テーマ：文法化(どのように文法機能が形成されるか)、人称理論(人称の使用法と文法の言語間での比較)、言語学と人類学の学際性(言語と文化の関係性の探求)。

学生時代の思い出：日本の学生時代は、海外での生活と学問を夢見てアルバイト、外国語学習に励む日々を過ごしていました。パリ大学時代は学業、生活の厳しさに押し潰されないよう生き、同時に文化の差を楽しんでいました。

日体生へひと言：スポーツのみならず、在学中の4年間で“英語以外の”外国語にも触れながら、自分のものにする努力をしてみてください。恥ずかしがらず国外の方々に話しかけ、相手の話を丁寧に聴く事。国際舞台で自信を持って話せる事は、諸君の重要なスキルです。

こんな人(趣味)：語学(フランス語だけでなく、すべての言語が学習対象)。楽器演奏(ドラム演奏、バンド活動)

①福岡県／②フランス語、異文化コミュニケーション演習／③青山学院大学(学士号：経済学)、パリ大学(修士号：社会人類学、博士号：一般言語学)、フランス、ルーアンESC高等商科学院(Ecole Supérieure de Commerce de Rouen) 専任講師、フランス、パリ ISG 高等経営学院(Institut Supérieur de Gestion de Paris) 専任講師／④博士(一般言語学)(パリ大学)



やる気こそ 人生の宝なり

松瀬 学

(まつせ まなぶ)

スポーツマネジメント学部
スポーツマネジメント学科
准教授

研究テーマ：スポーツ社会学、社会科学、情報学、メディア論。スポーツ活動、および国際スポーツイベントによる地域社会の活性化。とくに「被災地における国際スポーツイベントの効果」「震災復興、レジリエンス」にフォーカス。
学生時代の思い出：ラグビー部に所属し、ラグビー部に没頭した。日本のアマチュアスポーツの指導者、大西鉄之祐先生に師事し、著書「闘争の倫理」を熟読、スポーツの本源、スポーツマンシップ、フェアネス、教育の価値を学ぶ。図書館で古典、教育書、歴史書をむさぼり読み、酒場では友と哲学、夢を語り合った。
日体生へひと言：やる気こそ人生の宝なり。自分のスタンス、世界観を確立しろ。「みんな、毎日、燃えているか!」。
こんな人(趣味)：スポーツ観戦、ジョギング、水泳、図書館通い、放浪、友と酒場めぐり。

①長崎県／②情報リテラシー、スポーツメディア論／③・早稲田大学社会学部社会学科卒、社団法人共同通信社編集局記者、東京大学大学院教育学研究科修了、早稲田大学大学院スポーツ科学研究科修士課程修了、ラグビーワールドカップ2019組織委員会広報戦略長。／④修士(スポーツ科学)(早稲田大学)



AI時代を 生き残る 日体生の力

横田 匡俊

(よこた まさとし)

スポーツマネジメント学部
スポーツマネジメント学科
准教授

研究テーマ：スポーツを通じた社会課題の解決が大きなテーマです。特に、スポーツによる地域活性化などに関心があります。
学生時代の思い出：学生時代は、ひたすらサッカー部の活動に明け暮れました。自分の物の考え方、価値基準、信念、進路などに最も大きな影響を与えたのは、サッカー部の同期だと思ひます。多くの時間を共有したということでしょう。
日体生へひと言：日体大の学生は、考える力(特に課題設定力)に優れた人が多いですね。スポーツを通して「どうやって勝てるのか、うまくなるのか」を考え続けてきたからでしょうか。日体大生は、AI時代を生き残るための重要な資質を持っているような気がします。
こんな人(趣味)：趣味は筋トレ。平日は毎朝、ジムに行つてから出勤します。週末は、5歳の長男とサッカー対決が恒例です。
①栃木県／②スポーツマーケティング論、サービス・マネジメント／③横浜国立大学教育学部体育学科卒、東京大学大学院教育学研究科総合教育科学専攻修士課程修了、早稲田大学スポーツ科学部助手、株式会社三菱総合研究所主任研究員(スポーツ事業リーダー)／④修士(教育学)(東京大学)



スポーツや芸術は 夢や願いを叶える 未来を築こう

奥村 高明

(おくむら たかあき)

児童スポーツ教育学部
児童スポーツ教育学科 教授

研究テーマ：美術館の所蔵作品を用いた探求的な鑑賞教育プログラムの開発、ルーブリック評価及び美術検定の定量分析による統計的な分析を通じた鑑賞教育の学力把握
学生時代の思い出：バイク旅行、空手等の他は、彫刻やデッサン、デザインの制作に明け暮れていました。
日体生へひと言：スポーツや芸術は人々の夢や願いを叶えます。若者はこれからの社会と時代をつくっていく存在です。頑張ってください。
こんな人(趣味)：授業や研究が一番の興味の中心で、その他、時々模型を作成したり、近距離の家族旅行に出かけたりする以外に際立った趣味はありません。

①宮崎県／②教育課程論、初等教育図画工作／③宮崎大学教育学部中学課程美術科卒、宮崎大学大学院教育学研究科修了、宮崎県内の小中学校教諭、宮崎県立美術館学芸員、国立教育政策研究所教育課程調査官及び文部科学省初等中等局教科調査官、聖徳大学教授／④博士(芸術学)(筑波大学)



自ら選んだ道の 研鑽を 積んでほしい

河田 聖良

(かわだ せいら)

児童スポーツ教育学部
児童スポーツ教育学科 助教

研究テーマ：子どもと大人の心身の健康を根幹に、乳幼児期の子どもの遊びと動きの発達、それらに関わる生活習慣や社会環境などについて研究しています。
学生時代の思い出：夢だった日本代表選手、オリンピック出場を目指し、水泳競技(競泳)に明け暮れていました。極度のあがり症でしたが、夢を叶えたい一心で専門性高い多様な授業で学んだ知識を参考に、自ら模索し、奮闘しました。同期や友人、先輩、後輩、先生方には数々の助言をもらひ、次第に専門的な学びをより深めたくなつて大学院に進学しました。
日体生へひと言：「意志あるところに道は開ける」(エイブラハム・リンカーン)。この瞬間を大切に、自ら選んだ道の研鑽を積んで下さい。めいっばい身体を動かし、めいっばい頭を働かせ、めいっばい心が弾むような時間を過ごして下さい。
こんな人(趣味)：日向ぼっこ、ヨガ、ラジオを聞く、ふらつと美術館や食巡りをするこゝろ。
①愛知県／②幼児体育、保育内容「健康」／③日本体育大学体育学部体育学科卒、日本体育大学大学院体育科学研究科体育科学専攻博士前期課程修了、日本体育大学大学院体育科学研究科体育科学専攻博士後期課程単位取得満期退学、函館大谷短期大学こども学科専任講師、鶴見大学短期大学部保育科専任講師／④修士(体育科学)(日本体育大学)



知的好奇心を 發揮して 学んでほしい

齊藤 多江子

(さいとう たえこ)

児童スポーツ教育学部
児童スポーツ教育学科 准教授

研究テーマ：3歳未満児における保育環境や保育方法に関する研究。保育の質を担保するために必要となる保育環境のあり方、小グループでの活動等の保育方法等について。
学生時代の思い出：学生時代は、子どもと関わるアルバイトやボランティア活動を行っていました。そこで様々な人と出会うことが出来たことが、社会人になってからも役立っていると思ひます。4年生の時は、卒業論文を書くために、研究室で多くの時間を過ごしました。指導教官との関わりを通して、子どもや保育の面白さを学ばせていただきました。
日体生へひと言：大学は自ら学ぶこゝろです。アンテナを張り、様々な刺激に自分に取り入れ、知的好奇心を發揮してほしいです。また、じっくり物事に取り組むことができるのも大学に良いこゝろ。出会いを大切に、悔ひのない4年間を。
こんな人(趣味)：散歩、行先を決めず、その日の気分で歩くことが好きです。
①香川県／②教師論、保育内容(言葉)、教育実習I・II／③日本女子大学家政学部児童学科卒、青山学院大学大学院文学研究科教育学専攻博士前期課程修了、青山学院大学大学院文学研究科教育学専攻博士後期課程単位取得満期退学、高崎健康福祉大学人間発達学部准教授、こども教育宝仙大学こども教育学部准教授／④博士(保健福祉学)(高崎健康福祉大学)



仲間とともに 充実した 今を生きよう

橋谷 由紀

(はしたに ゆき)

児童スポーツ教育学部
児童スポーツ教育学科 教授

研究テーマ：特別活動の指導法 特に学級活動における「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」を視点とした資質・能力を育むための指導の在り方について研究しています。
学生時代の思い出：学生時代にたくさんの職業を経験しておきたいと考え、様々な種類のアルバイトをしました。また、アメリカのアリゾナ州でホームステイも経験しました。4年生の時は、採用試験の勉強と教育実習と卒論に集中して取り組みました。
日体生へひと言：変化の大きい世の中を、明るく元気に生きていく力を身につけてほしいと思ひます。今の自分が、明日の自分をつくります。高い志と希望をもって、仲間とともに充実した「今」を生きてください。
こんな人(趣味)：映画鑑賞、最近のおすすめは「グレイテスト・ショーマン」。ヨガ、旅行。
①香川県／②特別活動の指導法、道德教育指導論、教育実習指導／③香川大学教育学部国語国文学、川崎市教育委員会学校教育部区教育担当課長、川崎市教育委員会総務部担当課長、川崎市公立小学校校長、川崎市教育委員会総務部担当部長／④教育学士(香川大学)



積極的、活動的に 社会へはばたく 助走期間を

石山 信男

(いしやま のぶお)

保健医療学部 整復医療学科
准教授

研究テーマ：スポーツ選手を支えるアスレティックトレーナーの学ばスレティックトレーニング学、とくにコンディショニング、スポーツ外傷・障害などをテーマとしています。

学生時代の思い出：陸上競技部(中距離)に所属し、学生トレーナーとして選手をサポートをしていました。選手サポートの役立ち情報を求め、図書館、専門家のもとに向き見学させていただき、多くの方と出会い、指導を仰ぎ、当時漠然ではありましたがトレーナーを仕事としたいと思うようになり毎日通二無二突っ走っていました。

日体生へひと言：日体大の持っている環境、財産を生かして自身の将来の夢を目標に変え、実現に向け積極的に活動的に時間を過ごし、準備期間とし様々な学習、経験を積み社会へはばたいください。

こんな人(趣味)：映画鑑賞、旅行(世界遺産、名所巡り)、色々な方と出会い話をする。

①東京都／②整復治療学実習Ⅲ(頭・頸部、体幹)、アスレティックリハビリテーション論、予防とコンディショニング、卒業研究／③日本体育大学体育学部健康学科卒、筑波大学大学院体育研究科健康教育学専攻修士課程修了、株式会社ナイキジャパン、有限会社リニアート代表取締役、仙台大学体育学部スポーツトレーナー学科准教授／④修士(体育学)(筑波大学)



人生を通して スポーツを 楽しめるように

遠藤 直哉

(えんどう なおや)

保健医療学部 救急医療学科
准教授

研究テーマ：運動に伴う心臓疲労や、高地トレーニングが生体に与える影響、スポーツ現場における救急医療体制及び救護活動に関する検討、競技別の救急疾患及び救急対応の検討。

学生時代の思い出：高校時代は水球部に所属し、東京代表で全国準優勝を経験。大学でも水球への情熱を捨てきれず、医学部単科大学で水球部を創設したり、その後クラブチームで水球を続けるなど、常にスポーツとともに生活していました。
日体生へひと言：スポーツを通し、人生で必要な多くのことを学んでいる、素直で心の豊かな学生が多いと思います。今だけでなく、人生を通して大好きなスポーツができるよう、学業や社会経験などをさらに積み、無駄のない学生生活を。

こんな人(趣味)：大病院を退職した32歳からトライアスロンをはじめ、世界選手権上位進出を目指してほぼ毎日トレーニングしています。

①埼玉県／②スポーツ医学、内科学、スポーツ救急／③日本医科大学医学部医学科卒、早稲田大学大学院スポーツ科学研究科博士後期課程修了、日本医科大学武蔵小杉病院心臓血管・呼吸器・内分泌外科、国立スポーツ科学センター／④博士(スポーツ科学)(早稲田大学)



将来の目標を立て 後悔のない 学生生活を

清水 勇樹

(しみず ゆうき)

保健医療学部 整復医療学科
准教授

研究テーマ：スポーツ障害・傷害に対し、疫学調査ならびに超音波画像解析装置を用い運動器の形態や身体機能を把握し、柔整の臨床や現場に直結する治療や予防法の臨床的研究。

学生時代の思い出：①自分の夢である医師になること②英語圏に短期留学③サッカー部に入ってサッカーをするを目標に大学時代は過ごしました。①現役合格、②カナダバンクーバーに短期留学③全国2位になりました… 一応すべて目標は達成出来ましたが、そこで得た人脈や経験はいつまでも大切な宝物です。

日体生へひと言：将来の目標を立てて、後悔の無い学生生活を過ごす。将来への自分の強みを育てる。社会人になった後でも繋がっていただける人脈を作る。

こんな人(趣味)：映画やサッカーなどスポーツ観戦、神社仏閣で御朱印集め・美術館や博物館・旅行、登山やクラシックコンサート

①山口県／②整形外科、スポーツ医学／③産業医科大学医学部医学科卒、産業医科大学大学院医学研究科障害機構専攻博士課程修了、産業医科大学若松病院助教／④博士(医学)(産業医科大学)



多感な世代に 読書をして 心を豊かに

中澤 真弓

(なかざわ まゆみ)

保健医療学部 救急医療学科
准教授

研究テーマ：救急車の適正利用や救急事故の予防など、救急システムに関する研究をしています。救急隊の勤務経験から、社会問題を解決したいと思い研究者の道を志しました。

学生時代の思い出：プロ野球観戦が好きで、東京ドームでビールの売り子のアルバイトをしていました。重い荷物を持って野球場の階段を昇降して体力をつけたことが、救急隊員になった時に役立ちました。

日体生へひと言：たくさん読書をしてほしい。多感な年代だからこそ、心の琴線に触れる言葉の数々と出会えると思います。想像力が広がり、心が豊かになります。日体生は言わなくても運動はしていると思いますので、ぜひ読書を。

こんな人(趣味)：スノーボードと、バグ(犬)のグッズを集めるのが趣味です。

①千葉県／②救急処置各論、救急搬送論、医療コミュニケーション学／③帝京平成大学健康科学研究科修士課程修了、国立大学法人政策研究大学院大学公共政策プログラム修士課程修了、東京消防庁、帝京平成大学健康メディカル学部助教／④修士(健康科学)(帝京平成大学)、修士(防災政策)(政策研究大学院大学)



目標に向け努力と 感謝の気持ちを 大切に

松田 康宏

(まつだ やすひろ)

保健医療学部 整復医療学科
助教

研究テーマ：「手当て」の効果は患者さんと術者の主観で評価する場合が多いです。それを新たな光計測技術を使って客観的に評価できるような医療応用の研究に取り組んでいます。

学生時代の思い出：柔道部に所属し厳しい練習の毎日でしたが、大切な友人と出会い、心身共に成長できた有意義な学生時代でした。また、卒業後は自分の経験から怪我の治療について興味を持ち、柔道整復師として怪我の治療技術を学び社会に貢献したいと思い、様々な患者さんと楽しく向き合ってきました。

日体生へひと言：是非、大学生活や大学卒業後の「目標」を立てて欲しいです。その目標を達成するために地道な努力を積み重ねチャンスを掴んで下さい。さらに「ありがとう」の感謝の気持ちを大切にしましょう。

こんな人(趣味)：釣りやバイクの安全運転訓練ですが、最近は時間が無くて行っていません。

①東京都／②骨損傷I(上肢の骨折)、運動器損傷治療学総論、運動器の解剖学／③日本体育大学体育学部武道学科卒、帝京平成大学大学院環境情報学研究科修士課程修了、日体柔整専門学校附属日体接骨院院長、日体柔整専門学校教頭、日本体育大学期限付一般研究員／④修士(情報学)(帝京平成大学)



山本 保博

(やまもと やすひろ)

保健医療学部 救急医療学科
招聘教授

研究テーマ：医歯薬学(1.救急蘇生における循環面からみた脳循環代謝と脳蘇生、2.各種救急蘇生法とその検討、3.病院前救護における心肺機能停止の実態)

おもな受賞歴：平成21年度救急医療功労者厚生労働大臣表彰(2009/09)、平成20年会場保安庁長官表彰感謝状(2008/03)、平成19年度救急医療機関関係功労者東京都知事感謝状(2007/09)、平成18年度東京消防庁消防行政特別協力功労者表彰(2007/03)、平成18年度外務大臣表彰(2006/07)

おもな著書：[単著]図解応急手当ハンドブック 全ページ、[共著]救急救命士国家試験問題解答・解説集、救急治療・薬剤ハンドブック：診療科医薬品集

③日本医科大学医学部医学科卒、日本医科大学医学研究科薬理学専攻修了、医療法人伯鳳会東京曳舟病院病院長、医療法人伯鳳会白髭橋病院病院長、大坪会東和病院病院長、日本医科大学名誉教授／④医学博士(日本医科大学)



平昌オリンピック・パラリンピック結果報告・祝賀会開催される

平昌オリンピック・パラリンピック競技結果

【オリンピック】

★スケート スピードスケート			
高木 美帆	体育学部2017年卒/現:助手	女子チームバシユート	金メダル
		女子1500m	銀メダル
		女子1000m	銅メダル
		女子3000m	5位
★スケート ショートトラック			
坂爪 亮介	体育学部2012年卒	男子1000m	5位
		男子5000mリレー	7位
		男子500m	8位
★カーリング			
本橋 麻里	体育学部2012年卒	女子	銅メダル
★アイスホッケー			
小野 粧子	女子短期大学2002年卒	女子	6位
岩原 知美	体育学部2010年年卒	女子	6位
★スキー ジャンプ			
高梨 沙羅	体育学部2018年卒	女子ノーマルヒル	銅メダル
★スキー フリースタイル			
田原 直哉	体育学部2003年卒	男子エアリアル	19位

【パラリンピック】

★アルペンスキー			
本堂 杏実	体育学部4年	女子回転	8位
		女子スーパー複合	10位
		女子大回転	13位
		女子スーパー大回転	途中棄権
小池 岳太	体育学部2006年卒	男子スーパー複合	14位
		男子大回転	18位
		男子回転	18位
		男子スーパー大回転	27位
		男子滑降	途中棄権
★アイスホッケー			
堀江 航	大学院博士後期課程2年	男子	8位

平成30年5月10日、東京・世田谷キャンパスで「平昌オリンピック・パラリンピック結果報告・祝賀会」が、続いて夜には帝国ホテルに場所を移して、「平昌オリンピック・パラリンピック結果報告・祝賀会」が開催されました。今大会では日本勢が史上初の13メダルを獲得、そのうち5個が本学関係者によるもの。結果報告・祝賀会では、学校法人日本体育大学 松浪 健四郎理事長がこの快挙を報告し、さらに2020東京オリンピック・パラリンピックへの誓いを新たにしました。出席の選手・役員に表彰状・記念品が贈呈された後、代表してスピードスケートで3メダルを獲得した高木美帆選手（日本体育大学助手）が謝意を述べました。来賓として日本財団 笹川陽平会長、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 森喜朗会長、橋本聖子理事、そのほかのご臨席を賜り、盛会のうちに幕を閉じました。

◆出席選手・役員

【オリンピック】田原 直哉（スキーエアリアル）／高木 美帆（スピードスケート）／坂爪 亮介（ショートトラック）／小野 粧子（アイスホッケー）／岩原 知美（アイスホッケー）／柳 等（カーリング・役員）／青野 令（スノーボード・役員）／伊東 裕樹（アルペン・役員）

【パラリンピック】本堂 杏実（アルペンスキー）／小池 岳太（アルペンスキー）／堀江 航（アイスホッケー）

